

新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育

【取組の目的、内容】

高度な専門性に加えて教養教育の充実によって**学生にジェネリックスキルを身につけさせ、世界と関わり合え地域づくりができる技術者、地域企業の国際化に寄与できる人材を育成する**。低学年へ「地域学」、高学年へ「経営・国際教育」を導入すると共に、「リベラルアーツセンター」による継続的な教養教育の注入と卒業生進路の多様化を図る。

【実施体制】



【工程表】

H29年 7月～	教育プログラムの開発、連動した学科再編の基本設計
10月～	後期授業の中でプログラムの実践・評価・検証
H30年 1月～	プログラム改善の検討、事業総括・評価、取り組み成果のPR
4月～	改善したプログラムの実践・検証、学科再編の詳細設計

【成果指標】

- 自学自習時間や教養力を高めるため、リベラルアーツセンターを中心としたリベラルアーツ教育の充実などによって、**学生の図書貸出冊数の増加**：H28年度 8,900冊 → H30年度 10,500冊(年間1人あたり10冊程度)
- H30年度中に「H31年度からの**ジェネリックスキルを養成する新カリキュラムの構築**」を行う。
- **地域企業の国際化に寄与できる英語力の育成**：放課後TOEIC講座を受講している本科4年生のスコアについて、H28年度 平均394点 → 受講4年生全員を465点(上場企業が入社時に期待するスコア)へ到達

【第4期中期目標期間への展開（見込み）】

○ 「地域学」と「経営・国際教育」の開発により、第4期当初の学科再編、分野横断教育プログラムの円滑なスタートが可能となる。また、リベラルアーツセンターは第4ブロックの高専リベラルアーツ教育の拠点化を考えており、将来的には全国の拠点へと展開したい。